

令和5年度第1回花巻市地域自治推進委員会 会議録

1 開催日時

令和5年11月21日（火）午後2時00時～午後3時05分

2 開催場所

花巻市生涯学園都市会館 2階第1中ホール

3 出席者

(1) 委員（出席12名、欠席2名）

区分	団体等	氏名	出欠
第1号委員 公共的団体 から推薦さ れた者	花巻市認定農業者協議会会長	川村 厚	出席
	花巻市商店街振興組合協議会会長	佐藤 良介	出席
	花巻温泉郷観光推進協議会副会長	清水 隆太郎	出席
	花巻地域交通安全母の会連合会	城守 友子	欠席
	花巻市区長会 (花巻中央地区)	小山田 雅一	出席
	花巻市区長会 (矢沢地区)	川村 憲一	出席
	花巻市区長会 (宮野目地区)	佐藤 勇人	出席
	花巻市区長会 (太田地区)	伊藤 盛康	欠席
第2号委員 学識経験を 有する者	花巻市保健推進委員	千葉 秀子	出席
	花巻市民生委員児童委員	伊藤 澄枝	出席
	男女共同参画推進員	小笠原智恵子	出席
	主任児童委員	永井 ミナ子	出席
第3号委員 公募委員		菅原 元	出席
		吉田 優子	出席

(2) 事務局 (4名)

藤井地域振興部長、鈴木地域づくり課長、大竹地域づくり課長補佐、
川村地域づくり課地域振興係長

(3) 説明員 (4名)

岩間総合政策部長、富澤秘書政策課長兼総合計画策定室長
村田総合計画策定室次長、川村総合計画策定室主査

4 傍聴者 0名

5 次第

(1) 開会【鈴木地域づくり課長】

(2) 挨拶【川村会長】

(3) 審議

第2次花巻市まちづくり総合計画長期ビジョン(素案)について

【説明：富澤秘書政策課長】

(5) 閉会【鈴木地域づくり課長】

6 議事録

鈴木地域づくり課長 それでは、ただいまから令和5年度第1回花巻市地域自治推進委員会を開会いたします。はじめに川村会長より御挨拶をお願いいたします。

川村会長 皆さんご苦労様でございます。今年度の第1回目の地域自治推進委員会ということで、今日、お集まりいただきました。この後、説明があると思えますけれども、将来の花巻というか、今後の花巻についてのことを語ってくれるのかなと思っております。資料は前もって皆さんに配布されていると思います。それなりの描き方をしてくれていると思えますけれども、子供じみたことを言えば、もうちょっと将来的に夢のある花巻であってほしいなというのが私の意見でして、素案を見ていると、ちょっと暗くなるような場面も多々ありますけれども、まず今日は皆さんで、報告を受けて検討していただければ幸いです。今日はよろしく申し上げます。

鈴木地域づくり課長 ありがとうございます。それでは次第の3、審議に入らせていただきます。花巻市地域自治推進委員会条例第4条第2項に会長は会議の議長となると規定しておりますことから、以降の進行につきましては川村会長にお願いいたします。

川村会長 それでは早速審議に入りたいと思います。本日審議いただく案件は1件でございます。本日は、現在市が進めております第2次花巻市まちづくり総合計画の素案について、担当部より説明いただき、その後委員の皆様からご意見を頂戴するとのことですので、そのように進めてまいりたいと思います。

本日、出席いただいたのは、総合政策部長はこれからいらっしゃるということですが、総合政策部の富澤秘書政策課長兼総合計画策定室長、続きまして村田総合計画策定室次長、川村総合計画策定室主査であります。それでは第2次花巻市まちづくり総合計画について、担当の総合政策部から説明をお願いします。

富澤秘書政策課長兼総合計画策定室長 総合政策部長の岩間は、別の用務終了後こちらの方に駆けつけますので、よろしくお願いいたします。

まず、事前に資料を送付しておりますけれども、資料ナンバー1は、第2次花巻市まちづくり総合計画長期ビジョンの素案の概要版でございますし、資料ナンバー2は、長期ビジョン素案の全編でございます。資料ナンバー3は、長期ビジョンの骨子、目次のようなものでございます。資料はよろしいでしょうか。それと、本日テーブルの上に置かせていただいております資料3枚ほどございます。そちらの説明をさせていただきたいと思いますが、まずは23ページという表示があるものでございます。こちらの方は差し替えをお願いしたいところございまして、修正箇所は上のグラフの、社人研推計準拠という緑色の破線、令和2年の実績の数値こちらの方を9万3193人と改めたいというものでございます。それとともに前期アクションプランの最終年となります、令和9年という部分を挿入してございます。その上で、グラフの下に注記を追記しているというものでございます。次に78ページと表示がある資料でございますが、これはグラフ下の下から2行目、社人研推計、以下2行分を追記してございます。最後79ページです。こちらは平成27年と令和2年の人口の数値を訂正するものでございます。申し訳ございませんが、差し替えのほどよろしくお願い申し上げます。それではすみませんが、座って説明をさせていただきます。

まず、今般長期ビジョン素案の公表に至る経過についてご説明をさせていただきたいと思います。第2次花巻市まちづくり総合計画につきましては、昨年度当委員会にご説

明を申し上げました次期花巻市総合計画策定の基本方針（案）を決定した令和4年5月以降、本格的に計画策定の作業を進めてまいったところでございます。

策定に当たりましては、令和4年4月の花巻市市民参画・協働推進委員会で適切であるとの事前評価をいただいた市民参画の手法に基づきまして、令和4年度におきましては、市民意識アンケート調査、まちづくり市民ワークショップ、関係団体との意見交換という手法を実施いたしまして市民の皆様から長期ビジョンに掲載する将来都市像をはじめ、六つのまちづくり分野ごとの政策や重点施策推進プロジェクトに関し多くの意見を頂戴してまいりました。

令和5年度におきましては、各分野の政策や重点施策推進プロジェクトの記載内容の充実に向けて市民参画・協働推進委員会で事前に評価をいただいた市民参画の手法とは別に、関係団体からさらにご意見をいただいた上で政策及び重点施策推進プロジェクトの素案のたたき台を作成いたしまして、本年8月に市内4地域とオンラインによる地域説明会を開催し、市民の皆様からご意見をいただいた次第でございます。その上で、将来都市像とまちづくり分野ごとの目指す姿を含む長期ビジョン全体の素案について、昨年度開催いたしましたまちづくり市民ワークショップの参加者を対象として、10月16日、17日に説明会を開催し、ご意見を伺うなど、これまでに市民の皆様からより多くの意見を頂戴しながら、素案の策定の作業を進めてまいったところでございます。

一方で庁内におきましては、現行の花巻市まちづくり総合計画の総括を行うために、現在の総合計画に位置づけております全ての政策および施策について、平成26年度から令和3年度までの実績に基づいて内部評価を実施いたしまして、報告書にまとめております。そのほか、第2次総合計画長期ビジョンに掲載する政策の内容について、部単位での検討会を開催いたしまして、今後8年間の取組の方向性について検討してまいりました。長期ビジョン素案につきましては、副市長を委員長とする内部組織の花巻市総合計画策定委員会をこれまでに9回開催いたしまして、審議を経て、この度、市として素案を決定して、公表に至ったところでございます。これまでの市民参画ですとか、内部検討した取り組みの経過につきましては、資料ナンバー2の104ページから109ページに掲載してございますので、後ほどお目通しいただければと思います。

それでは前置きが長くなりましたが、概要の説明をいたします。説明は主に資料ナンバー1、この概要版の方でご説明をさせていただきたいと思っております。関連する内容につきましては、資料ナンバー2で併せてご説明いたします。資料ナンバー1の1ページをご覧願います。長期ビジョンは序論と第1章から第5章までの構成としております。はじめ

に序論では計画の策定趣旨や役割として、花巻市まちづくり基本条例第18条に基づく長期的な視点に立った総合的な市政運営の基本となる計画でありますこと、計画期間は、令和6年度から令和13年度までの8年間とし、8年間の長期ビジョンと、この8年間で前期4年、後期4年と、アクションプランの二つで構成することとしております。

計画推進の考え方につきましては、現行の総合計画と同様に行政評価の仕組みに基づくマネジメントサイクル、計画・実行・評価・改善のPDCAサイクルを確実に機能させまして、取組の成果の評価結果を市民の皆さんと共有していくこと、アクションプランについては、社会経済状況の変化に対応していくために、毎年度事業費等の時点修正を行う、いわゆるローリングと申しますけれども、そちらを3年先まで見通しながら行うこととしております。

持続可能な開発目標のSDGs、こちらにつきましては、市では各種計画や事業計画の立案等を行う際、この計画などがSDGsにおける17のどのゴールを達成することに繋がるのかということを確認にして、SDGsの着実な推進を図ることといたします。

総合計画におきましても掲げる政策がSDGsのどのゴールに繋がるか、その該当するSDGsのアイコンを表示してございます。一例といたしまして資料ナンバー2の36ページをご覧ください。こちらは政策1-1農林業の振興でございますけれども、ページの上段にSDGsのアイコン、11個表示してございます。この農林業の振興の政策を実行することで、例えばゴール2の「飢餓をなくそう」ですとか、4の「質の高い教育をみんなに」など、ここに表示してある11のゴールの達成に繋げることを示しております。

資料ナンバー1にお戻りいただきまして、次に2ページをご覧ください。第1章、花巻市まちづくり総合計画、前計画の評価でございます。ここでは前計画としておりますけれども、今年度までの計画期間としております現花巻市まちづくり総合計画のことを言っておりまして、第2次総合計画に対して前計画というような表記としております。

はじめに市の政策に対する市民意識といたしまして、昨年度に実施いたしました市民意識アンケート調査結果の一部を紹介しております。この中で満足度が高い政策として、防災危機管理体制の充実、生活基盤の充実などが挙げられておりまして、不満度が高い政策として、商業の振興、雇用環境の充実などとなっております。また、重要度が高い政策として、生活基盤の充実と健康づくりの推進、そして子育て環境の充実が続く結果となっているということでございます。

次に前計画のその達成状況として、先ほど申し上げましたけれども昨年度において、平成26年度から令和3年度までの8年分の実績について内部評価を行ってございます。前

計画においては政策が21、施策が72ございますけれども、政策についての達成状況については政策評価時点で、指標の数値が未公表の政策を除く19の政策のうち、半数以上の成果指標が達成率90%以上の良い評価となったというのがA・B・Cこの合計が73.1%、施策については、成果指標の設定対象外の施策を除く65の施策のうち、ABCの合計が63.1%という結果となっております。

次に第2章、まちづくりの視点でございます。この章では本市を取り巻く社会情勢と、本市の特性について記載しております。社会情勢として青い文字で記載しておりますけれども、人口構造の変化、社会の変革、くらしの変化、地方自治の変革そして本市の特性として、オレンジ色の文字で記載してございますが、豊かな自然環境、高速交通網の結節点、豊富な観光資源などを記載してございます。

次に3ページをご覧ください。将来人口等の見通しにつきましては、人口減少対策を計画的かつ強力に推進して人口減少のスピードを緩やかにすること。財政運営については将来にわたり持続可能な財政運営を行うこと。土地利用については、持続的な発展に向けた適正な土地利用を図ることについて記載してございます。

第3章、将来都市像でございます。この将来都市像は第2次花巻市まちづくり総合計画の計画期間の最終年度、令和13年度における花巻市のありたい姿を示したものでございます。将来都市像につきましては、昨年度実施いたしましたまちづくり市民アンケート、市民ワークショップの一般部門の中で新しい将来都市像を検討しようというようなテーマで話し合いを行っていただきまして将来都市像の案をグループごとにまとめたところでございます。市では、このワークショップで検討いただいた将来都市像の案のキーワードをはじめ、若者部門で検討いただいた将来の花巻市のありたい姿で出されたキーワード、市民意識アンケート調査や関係団体との意見交換でのキーワードを踏まえまして、花巻市まちづくり基本条例の前文をベースに、市が今後8年間に進む方向性を表現できる将来都市像となるよう検討いたしまして、「豊かな自然 安らぎと賑わい みんなでつなぐ イーハトーブ花巻」という案にした次第でございます。このキャッチフレーズが持つ意味といたしまして「豊かな自然」は早池峰山などの美しい自然、温泉等の観光資源などの豊かさと人々の暮らしが調和することを表すもの。「安らぎと賑わい」は、安全、快適で誰もが安心して健康に暮らせるまち、多彩な産業の発展を表すもの。「みんなでつなぐ」は、自然や文化、地域を、子どもたちを含む市民全員で未来へつなげること、市政にたくさんの市民が参画すること、人々のつながりや地域のつながりの深まりを表すもの。「イーハトーブ花巻」は、イーハトーブは宮沢賢治の

造語ドリームランドとしての岩手県であり、花巻市はそのドリームランドを目指すことを表すものとしたしております。

資料ナンバー2の31ページをご覧ください。こちらには検討段階で抽出したキーワードの分析について掲載しております。ワークショップやアンケートなどそれぞれの場面で出されたキーワードの数が多いものほど面積が大きくなっているものでありまして、例えば、左下の図のワークショップ一般部門の単語分析では、「イーハトーブ」ですとか「つながる」とか、「安心安全」、安らぎにつながる「安」という文字と、「自然」というようなキーワードが多く出されておりました、これらのキーワードを将来都市像の案に生かしたものでございます。

資料ナンバー1にお戻りいただきまして、次に4ページと5ページでございます。第4章まちづくりの基本方向でございます。しごと、暮らし、健康・いのち、子育て・人づくり、地域づくり、行政経営、この六つのまちづくり分野ごとに取組の方向として合わせて20の政策を掲載してございます。4ページには、それぞれのまちづくり分野ごとに目指す姿を記載しておりますが、この目指す姿は、まちづくり市民ワークショップ一般部門での検討をいただいたまちづくり分野の目指す姿で出されたキーワード、そのほかに関係団体等との意見交換でいただいたご意見も参考に、まちづくり分野のそれぞれの政策での取組の方向を表すキャッチフレーズとして案を作成したものでございます。

第4章につきましては一つ目のしごと分野を例にご説明をさせていただきます。資料ナンバー1の4ページの5ページのほかに、資料ナンバー2の35ページから41ページ、こちらの方もあわせてご覧ください。資料ナンバー2の35ページ、しごと分野の目指す姿は「多彩な産業が発展 みんなが笑顔で働くまち」としております。まちづくり分野の基本的な考え方といたしまして、「農業をはじめ、商業、ものづくり産業、流通業や観光業など、本市の地域産業の成長を促進するとともに、地元で働きやすい環境づくりを推進し、市民が花巻で暮らし、生き生きと働くことができるまちづくりを目指します。」としてございます。取組の方向といたしまして、36ページの政策1-1農林業の振興から40ページの政策1-4、市内企業への就業の促進まで四つの政策で構成し、それぞれの政策について記載してございます。また、各政策における具体的な取組方策の項目を施策展開として記載しておりました、政策1-1、農林業の振興では、37ページの方に(1)農業生産の支援から、(6)の担い手の育成まで、六つの施策の項目としてございます。そして41ページには、この「しごと分野」のみんなで取り組みたいこととして、市民や企業に期待される取組を記載しております。例えば市民、地域、市民団体等を含みますけれど

も、「市内商業施設の積極的な利用や商店街等が実施するイベントへの参加など」と、それぞれの政策に関わる取組の例を記載しているものでございます。以下暮らし分野以降についても、分野ごとに同様の構成で記載しております。

次に資料ナンバー1の6ページご覧願います。第5章、重点施策推進プロジェクトでございませう。重点施策推進プロジェクトでは、市の最重要課題を人口減少として、先ほど第4章でご説明いたしました六つのまちづくり分野の政策を横断的に推進しようとするものでございませう。プロジェクトは二つございまして一つ目は、「子ども・子育て応援プロジェクト」で、もう一つは「花巻で暮らそうプロジェクト」、この二つのプロジェクトによって、人口減少対策を強力に進めていきたいと考えてございませう。

まず、「子ども・子育て応援プロジェクト」として、「妊娠・出産・子育ての一連のステージにおいて、子どもや子育て世帯に対する切れ目のない支援を通じて、子どもを産み育てたいという希望がかなえられ、子どもが健やかに成長できる環境づくりを行うことで、本市の少子化傾向に歯止めをかけることを目指そうとするものでございませう。この内容について7ページをご覧願います。①の妊娠・出産・子育てに関する相談・支援体制の充実から⑦まで掲載してございませうが、例えば①には、妊産婦や保護者が気軽に相談できる窓口機能のICT活用や外部組織との連携を含めた機能の充実などと取組内容を記載してございませう。この取組の結果、右の欄になりますけれども、総合計画の計画期間の8年後、プロジェクトで目指す姿として「妊産婦や保護者が気軽に相談できる環境が整い、必要な支援が受けられています。」というような記載としてございませう。このほか②以下につきましても、そのプロジェクトの内容と目指す姿を掲載し、この取組を第4章に掲げる政策により、重点的、横断的に推進しようとするものでございませう。もう一つの「花巻で暮らそうプロジェクト」、こちらの方は「結婚や住居、移住や子育ての支援を充実させることで、若い世代を中心とした定住の促進と併せ、中心市街地の活性化、地元で働く場の確保などに取り組むことで、若者や勤労世代が住みたい、住み続けたいと感じる魅力と活力に満ちたまちづくりを目指します。」としてございませう。

資料8ページをご覧願います。①の移住・定住に関する相談体制の充実から⑦まで記載してございませうして、例えば①には市民や団体と連携し、移住・定住を希望する方への相談体制の充実などと取組み内容を記載してございませう。この取組によって右の欄に「移住・定住を希望する方に対する相談体制の充実と、効果的な情報発信により、移住

相談者が増加しています。」とプロジェクトで目指す姿を記載してございます。②以下につきましては同様の方向性で記載してございます。

次に資料ナンバー3のご説明をさせていただきます。令和5年4月に公表をいたしました第2次花巻市まちづくり総合計画長期ビジョンの骨子の変更についての資料となります。骨子の作成に当たりましては、本年3月に当委員会にご説明をさせていただいて、ご意見をいただいた上で公表いたしておりますことから、この変更についてご報告いたしたいというものでございます。資料ナンバー3の参考資料、こちらの方が新旧対照表になってございますが、変更点につきましては、表の左側の欄の第1章、理念につきましてこの章を削りまして、以降の章の番号を繰り上げるという内容でございます。

変更した理由につきましては、当初の計画の理念について章を立てて設定することとしておりましたけれども、理念につきましては、変更後、表の右側、こちらの方は第3章、将来都市像が総合計画の理念そのものを説明するものとなってございます。その理念の章を設けることにより、説明が重複するというようなことで、また、第1章でSDGsについても説明することとしておりましたけれども、SDGsについては序論での説明が妥当の見直しから理念の章を削ったものでございます。

そのほかの変更点につきましては、素案の作成に伴いまして項目を整理したものでございます。変更後の骨子の全体像につきましては、資料ナンバー3のA3折りたたみの資料になってございますので、後でお目通しをお願いいたします。

これまで長期ビジョンの概要について説明してまいりましたけれども、今後の予定について説明をさせていただきます。本日の委員会での説明、こちらの方は花巻市内4地域と総合計画審議会にも同様の説明を行いながら、昨日から12月19日までの30日間、パブリックコメントを実施してございます。そのパブリックコメントが終了した後にそれまでにいただいた意見をこの長期ビジョン素案にすることを検討いたしまして、素案から案という形で作成をいたしまして、年明けには改めて当委員会に諮問をさせていただきたいということでございまして、当委員会の他に総合計画審議会等への諮問、そして答申をいただいた後に、できるだけ早い時期に、市議会への上程を予定したいと、それに向けて作業を進めてまいりたいと考えてございます。説明は以上でございます。よろしくをお願いいたします。

川村会長 説明が終わりました。それでは委員の皆様から、意見、質疑、発言をお願いしたいと思います。

清水委員 花巻温泉郷観光推進協議会の副会長として出席しております、愛隣館の清水と申します。ご説明ありがとうございました。

改めて花巻市のデータとしての人口の推移を拝見しますと、日本全体と比較してどうなのかなというところがちょっと気になりました。人口が日本全体として減ってくる中で花巻市はどうかというところが疑問で、こんなにも実際減るんだなということに改めて実感してこれだけ人口が減りますとですね、旅館業とかやっていると大型の旅館も多い中で、働く人も実際半分ぐらいに、この40年先とかになりますと旅館業をちゃんとやっていけるのかという部分が本当に不安になる部分もあります。また、現状で花巻市でもこういった観光業とかも気にさせていただいてヒアリングとかお電話いただいたり、お会いしたりする場面も多いんですが、物価高の中で宿泊単価などを上げてということで観光業もやっているわけなんですけれども、その人手の部分ではもう現状でも、旅館によっては人手が足りないので、お客様の受け入れを制限しているなんて宿も現状でもう既にありますので、この人口が減っていく部分としては目を背けるわけにはいかないものの、やっぱりアクセル全開で政策を今からしっかりやっていく必要があるのかなと思います。

そういった中で働く人を確保するという意味では、この案の中にも入っていましたが、就職してもらう人を増やすっていうのは大事ななと思っていて、旅館の場合は引っ越しして、社員寮に入るとかっていう人も結構いますし、それ以外でも働く職場として花巻市の企業が選んでいただくことで、住む人も増えるし、旅館とかでも社内結婚もたまにありますし、働く、そういった就職の場として花巻の企業が選ばれるようになればと思っています。以上です。

富澤秘書政策課長兼総合計画策定室長 はい、ありがとうございます。人口のお話が出たのでちょっとだけ触れさせていただきます。資料ナンバー2の23ページに、将来人口等の見通しということで、差し替えになった資料でございます。こちらは上の方のグラフです。上の赤い実線、住民基本台帳上の数値でございます、それをベースに目標値設定をしております。これは、人口減少対策に取り組んだ場合、人口減少の中にあっても何とか緩やかなスピードとしたいという、これが目標値でございます。真ん中の青い実線、これも住民基本台帳上の数値がベースですけれども、これは成行値でありまして人口減少対策をしない場合の数値です。一番下の緑の破線ですけれども、こちらのベースは国勢調査でございます。上の二つの青線と赤線とではベースが違っておりますが、これは社人研（国立社会保障・人口問題研究所）が国勢調査をベースに、その国勢調査

の実施年から3年後位に公表する人口推計です。現時点では、花巻市の人口は社人研推計と比べ、そこまでは減っていないというような状況でございます。

川村会長 それでは続いてどうぞ。

千葉委員 千葉秀子と申します。総合計画の資料をじっくりと読ませていただきました。アンケートやワークショップ、関係機関との意見交換など丁寧な過程を踏んで作られた総合計画、いいものが出来たというふうに思って、見させていただきました。

若干の質問と感想ですけれども、この人口減少のグラフには本当に驚きました。最初はミーハーに自分の10年後は、20年後はみたいな気持ちで見ましたけれども、こんなにも急激に減っていくものなんだなということに驚きまして、本当に政策で人口減少のスピードを穏やかにすることが目標だということはそのとおりだと思いました。特に15歳から64歳の生産年齢人口の大きな減少に本当に危機感を覚えます。まちづくりを成すどの分野でも、人口減少と労働力の不足が重要課題ということで、その政策が打ち出されておりますが、全くどれも重要な施策だと思いました。個人的に私も子育て支援の分野でいくつか関わっていますので、いつも子どもたちの未来が明るいものであってほしいと願っています。そのために子ども・子育て応援プロジェクトに大いに関心があるところです。8年間という長期のビジョンですけれども、担当者が変わられても、粛々と計画を進めていただきたいものだなというふうに思いました。

あとちょっと軽微なところですが、重点施策推進プロジェクトの詳細の資料ナンバー2の74ページ、花巻で暮らそうプロジェクトの背景の文章の中で、最後の行です。「今後においてはより積極的な対策、特に女性が住みたい・住み続けたいと思えるまちを目指す取組が必要です。」という言葉があるんですけれども、概要版の方には特に女性という文言は入ってはおりませんが、ここに特に女性と書いた何か根拠はあるのか、お聞きしたいなと思いました。以上です。

村田総合計画策定室次長 はい、ありがとうございます。ただいまの資料ナンバー2の74ページ、花巻で暮らそうプロジェクトのご質問でございます。「特に女性が住みたい・住み続けたいと思えるまちを目指す」と取り組む、目指す方向性を示しているところですが、やはり特に若い女性の方々、学生を終了して就職という段階におきましては、市内を選択するよりも、市外あるいは首都圏など都市部の方に行かれるという傾向が多いというふうに捉えております。その原因として考えておりますのは、地元で希望する職種がないという形で、そういった格好で地元を離れてしまって、そのまま出て行った先の方で定住に繋がり地元の方には戻ってこないというような形で、女性の市

外への流出といいますか転出といいますか、そういった傾向が多いということがございまして、少しでも花巻に住んでいただく、住み続けていただくということができるよう、魅力のある仕事ですとか、まちづくりを進めていって、女性も含め、若い方々もそうですけれども、あるいは市民の今も住んでいらっしゃる方々にも、今後も住み続けていただけるようなまちづくりを目指していきたいということで、ここをあえて女性、特に女性が住みたい・住み続けたいというようなことをまず目指していくというような形で記載したものでございます。

川村会長 岩間部長どうぞ。

岩間総合政策部長 少し補足をさせていただきます。今、村田から申し上げたとおり学生から就職するときに若い女性が首都圏の方に出ていく割合が高いということと戻ってこないということそのとおりなのですけれども、この戻ってこないところが、結局その言い方はちょっと悪いかもしれませんが、出産の適齢期に当たる女性が花巻市内に少なくなっているという状況があり、それが出生率の低下というところに繋がると見ておりまして、このことからいずれ子どもたちを増やしていくことに当たっては、この年齢の女性の方々に花巻市に住み続けていただく、逆に帰ってきていただくというような施策を打っていきたいというような考えでございます。

川村会長 そこから始まるということだそうですね。次の方どうぞ。

小笠原委員 今のお話ありがとうございました。私も関連して質問したいと思います。資料ナンバー1の2番のところの一番上の方に政策の不満度っていうところで、商業の振興とか、雇用環境の充実とか、あと農工商観連携の推進とか、そういう不満度をどれぐらい解消するような将来都市像に向かっているのかっていうことをずっと見ていて思っていたのですけれども、今、女性がネックだったんだって思って、やっぱりそういう女性を引き付けられるまちづくりをしなきゃいけないんじゃないかと思うと、本当は女性って言葉を出すのは嫌なんですね、男も女も働かなきゃいけないから、男も女も雇用されるようなまちづくりをしたいんですけども、この政策の不満度のところとその女性の仕事というところの市の方々の考え方っていうところをお伺いしたいと思います。

富澤秘書政策課長兼総合計画策定室長 花巻市内や近辺で女性が職を求めるといった場合に、例えば、希望する職種とはマッチしてない部分があるのではないかなという部分もあると思っています。そうした中で例えば企業誘致で女性を雇用できる企業をとという話にもなるのかもしれませんが。現在市が行っていることの一つに、地元の企業や事業所の情報を求職者が入手できるという、雇用条件や福利厚生など情報が欲しい人にとって

情報が入手できるという「おしごとNAVI花巻」を昨年度から市のホームページを通じて設定しています。

川村会長 次の方どうぞ。

清水委員 愛隣館の清水です。採用の部分でいきますと、先ほどおっしゃった「おしごとNAVI花巻」、それはそれでいいかと思うのですけれども、結構世の中の的にはハローワークもあるし、ジョブカフェもあるし、なんかいろいろなサイトがもう溢れていて、各サイトに登録するのに大変なところもある中で、「おしごとNAVI花巻」が本当にその魅力をちゃんと伝えられて、ちゃんと就職に結びつくのだろうかという疑問点はありながら登録をしているというような現状があります。

そういった中で花巻の企業に限らず、当社でも外国人の採用などというところもやっている企業もある中でその辺、どうでしょう日本人の方で人口が増えていけばいいのですが、企業を経営する上で外国人を採用していくっていうところもどのように考えて、花巻市としては考えているのかとか、その辺をお伺いしたいというところと、あともう一点、採用のところでも今非常に面接するタイミングというか、学生の採用タイミングもすごく変わってきていて、花巻市内ではすごくご理解いただいている、インターンシップを通じて採用するような流れにここ直近変わってきている中で、最近だと中学生のインターンシップとか職場見学とか、あとは高校生もという中で、小さい頃からその地元の企業に触れ合うような場というのがあればいいのかなと思ったりもします。以上です。

岩間総合政策部長 はい、それでは最初に外国人の採用、雇用の話についてです。市としても、各種団体様と協議をさせていただく中で、やはり外国人を労働者として雇用していくということは、今後、重要であるというようにご認識されているということは理解しておりますし、市としてもそれは必要なことであろうと思っておりますので、そういうところに市として対応できるような窓口とか、そういうものについて検討していかなければならないという認識ではありまして、これについてはこれからの検討ということで考えております。

ただ、一方でいろいろ多くの外国人の方が市内に住むということになった場合に、コミュニティへの影響という部分についてもやはり考えなければいけないだろうということで、日本の地域の中では外国人の方があまり多くなりすぎたがためにその地域との軋轢を生んでいるというような事例も多数あるということは認識しております。

より多くの外国人の方が花巻で働くというような状況になった場合においては、市としてコミュニティと外国人の間の橋渡しの部分については、より大きな責任を負って考えていかなければならない部分であろうと思っております。

それからインターシップにつきましては、市役所の方にも中学生、高校生が来てインターンシップすることがございますけれども、企業さんの方でも積極的に受け入れていただいているところもあるとお伺いしておりますので、ご希望のそういう受入れについて、うちは大丈夫だよというようなところがありましたならば、市役所の方にお話をいただくとありがたいかなというふうには思います。中学校、高校に繋ぐことが可能であろうと思っております。

先月の有効求人についての新聞報道を見ますと、花巻市では、宿泊業を中心とした求人が100人規模程度で出されたということで、なかなか人材確保が難しいというような状況にあるということは、報道を通じても理解できるところであります。市としても働き手の確保という部分で企業さんと連携していけるのであれば、どんどんやっていきたいというふうに思っております。よろしく申し上げます。

川村会長 今日の説明ということですから、一人一言とは申しませんが、ほかに質問のある方はいらっしゃいますか。

永井委員 永井と申します。ちょっと重複するような内容ですがけれども人口減少で今、空き家がすごく増えてきていて、私の実家もそうなのですけれども、そういう意味では移住者というか、先ほど魅力ある街であれば、いろんな人が入ってくるっていう場合もあるんですけども、花巻市でもそういう状況というのは、どうなっているのかお聞きしたいと思います。

川村会長 ただいまの件について、市から申し上げます。

富澤秘書政策課長兼総合計画策定室長 はい、ありがとうございます。

まさに今度の計画のプロジェクトの一つ、花巻で暮らそうプロジェクトに関わってくるころかと思えます。花巻市は県内の自治体で比べますと、その取組は進んでいる方ではないかなというふうに考えてございます。空き家バンク制度の活用ですとか、例えば、東和地域では民間の東和作戦会議という団体がございまして、そちらの方では移住希望者に対し、地域の情報など親身にその相談に応じているということで、その実績も上がってきているということでございます。花巻エリアについても、結構若い方々が問合せなど窓口にもいらっしゃっているということでございます。こちらの方もまたさらに拡充なり、その支援をしながらできる限りその定住に繋がっていくような取り組みを

進めてまいりたいというのが、プロジェクトの一つということでございます。具体的な事業ということになりますと、アクションプランで位置づけてまいりたいと考えてございます。

永井委員 ありがとうございます。

川村会長 次の方どうぞ。

菅原委員 実はこの資料を郵送でいただく前に、11月の12日ですか、岩手日日新聞に花巻の人口が65年度に5万9500人という記事があったのです。実はこれ私読んだときに何のことかさっぱりわからなくてびっくりしたんですが、このいただいた資料と合致していきまして、このことをおっしゃっているんだなということで自分としては納得したんですが、実は私、北万丁目に住んでおります。今、人口が2100人ほどおいて、未だにちょっと増加傾向だったので、こういう記事を見ると、自分の住んでいるところが増えているかもしれませんが、市としてはやっぱり減っているという現象があるということをも認識しました。当然人が少ないということは、税収も少なくなり、市の予算も少なくなり、いろんなビジョンも小さくなることになると思います。ですから、有意義な使い方をしなきゃいけないねということになるんじゃないかなと。この前も私の地元では、ある方が市役所の方にうちの前、市道だから草を刈ってくれて市役所に直接言ったらいいんですよ。当然市の方は、いや、それはまちづくり協議会にまずご相談くださいってことで、まちづくり協議会に相談して、北万丁目の区長が呼ばれた格好になったんですが、仕組みとしては、その方が個人で市に行くのではなくて、ちゃんと地元で受け入れをしなきゃいけなかったということが一つと、そういうことから考えて、今まで何でも市でやってくれるもの、何でもその公の公助という仕組みがあったわけなんです。これからは地元の方々がやれるような共助、もしくは自分でやるしかないということもありますので、そういう認識を我々が持つべきものだと思います。それをちゃんと地域の方々にも、知っていただきたいなというふうにもちょっと考えた次第です。

あとこの資料を見て、ワークショップとか若い方々がいろんな意見を述べて、これからの花巻を考えていろいろやっていく上で、こういう意見を出しているにも関わらず、先ほど学生になって都会に行って戻ってこないっていう悲しい現象が予想されますので、やはりこういうワークショップに出た方々が、将来の花巻をつくる意味で、やっぱり魅力ある花巻になってほしいなという個人的な思いがあります。以上です。

川村会長 ただいまの件について、市で何かありますか。

富澤秘書政策課長兼総合計画策定室長 はい、ありがとうございます。

将来人口については、総合計画とは別に、まち・ひと・しごと創生総合戦略というものも作成しております。それに関して岩手日日新聞で取り上げていただいたのがこの人口ビジョンでして、こちらの総合計画にも反映されているということでございます。若者については、市民ワークショップに市内高校生にも出ていただいたということもございましたので、素案を説明させていただくと同時に、昨日からパブリックコメントを始めていますという話をしましたが、市内の高校にも、パブリックコメントとは別に、ポスターを掲示させていただいて、二次元バーコードで市のホームページに載せている動画が見られるような取組も行っているところです。15分ほどの紙芝居のような動画になっておりまして、そちらの方で総合計画の概要を紹介していますので、若い人たちには、そちらの方からまずはお知らせしているというところでございます。

川村会長 よろしいですか。この計画を全部理解してというのは難しいですが、本日の意見を市当局で検討をお願いしまして、一つ今後に繋げていただきたいと思います。今日は以上でよろしいですか。

それでは本日の案件は以上となります。皆さんありがとうございました。

鈴木地域づくり課長 川村会長、委員の皆様、大変ありがとうございました。

たくさんの貴重なご意見を賜りましてありがとうございました。

以上をもちまして、令和5年度第1回花巻市地域自治推進委員会を閉会とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。